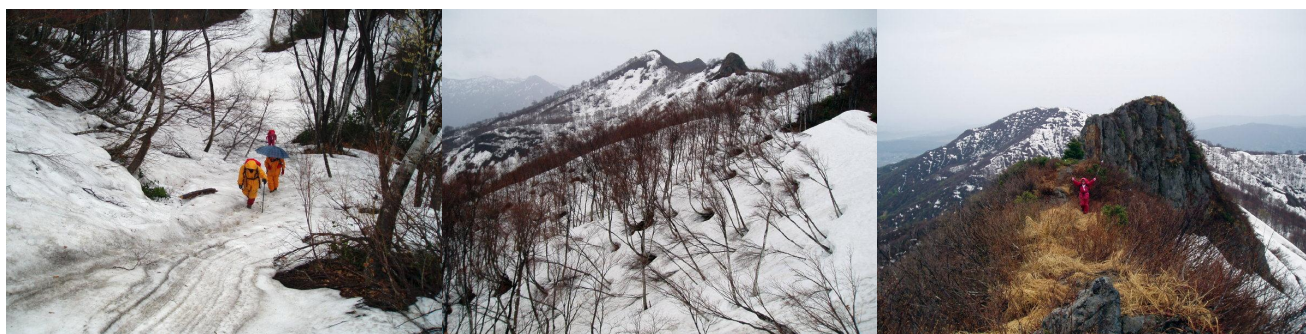


## 唐 松 山 山 行 記 録



鏡池付近の鞍部

山頂を望む

猫岩と上権現山

目的地	唐松山	期 日	平成21年4月25日(土)・小雨のち雨
山人	笠原正雄・荒木幸代・加藤イツ子・大谷雅子	特 記	午前中は降らないだろうと出掛ける。

地 点 名	時 刻	記 事
与 板 発	午前 5:50	「朝 5 時に降っていなかったら出掛けよう」と話し合っていた。Kのモチベーションがイマイチだったが、予定より少し遅れて中之島Pで合流。
手ノ又登山口	8:15	羽川荘から先の手ノ又沢の道は途中まで舗装されていた。その先も以前より走り易くなった。ヘツリ道はやはり雪が落ちきらないと入れないと思った。登山口手前の大きな杉の木の下に駐車。ポツポツ雨が当たって来た。Aがタラノ芽を見つけ数個採る。田圃道から山菜採り夫婦の車一台がやって来た。
花	8:30	ゆっくり歩いている。イワカガミ、イワウチワ、イワナシ、タムシバ、ムシカリ、ムラサキヤシオツツジ、マンサクと花を楽しみながら登る。
滝見台	8:45	雨は歩き出しの時より弱まった。暑くなって一枚脱ぐ。八海山、駒ヶ岳、未丈ヶ岳と少し雲がかかっているが、概ね頂を確認出来る。
カ ッ パ 着 用	9:35	上権現分岐手前より雪道となる。雨が少し強くなって来て、分岐から少し下がった斜面でカッパを着る。
鏡池鞍部	9:40	雪で道は分からないが喬木帯を左右に縫いながら先を進む。小ピークに上がれば、この先の急登支尾根と、主稜線が見える。
夏道となる	9:55	およそ20分の残雪歩きから夏道に上がる。守門岳、浅草岳を見る。
支尾根急登途中	10:10	傾斜が緩んだ所で休み少し食べる。更に枝を掴みながらの急登。
主稜線に上る	10:30	すぐにH954.5の三角点。この先、所々で雪が道を覆い、夏道と雪上を交互に進む。場所によっては小さな雪稜となっている所もあった。
猫岩に上る	10:50	上権現山が良く見える。ピークを過ぎて右のトラバースに下りるが、岩場のヘツリで下り難い。先にストックを投げて、草木を掴みながら下りた。ところが、Aは直進した。そちらのほうに降り易い道が付いていて、容易に降りられたようだ。結局岩場を降りたのは俺だけで、3人のほうが早かった。
唐松山頂	11:25	山頂周囲は雪が無くなっている。少し先へ降りて。風除けにツエルトを灌木に結びつけて、ランチ場とする。幸い雨が上っていた。フライパンで皿うどんを作る。
下山開始	12:45	雨がポツポツ当たって来た。南の尾根稜線の新緑が幾重にも見えていい景色だ。
H954.5三角点	1:35	本降りに向かって来た。今まで見えていた守門、浅草はガスに覆われた。三山も見えなくなった。毛猛はようやく見える。
鏡池鞍部	2:15	一ヶ所だけシリセード出来た。ここで立ち休み。少し登って雪を使い、左へ進んで上権現分岐に登り返さずにトラバースする。
滝見台	2:40	雨で水量は多い。
コシアブラ	2:45	Aは山菜に詳しい。コシアブラを見つける。すっかり山菜採りモードとなる。
登山口着	3:05	駐車地点に戻る手前、道を降りてコゴメを摘む。羽川荘で入浴し帰路に。

彼女らは前日、高橋誠一さんと加茂市の猿毛岳へ出掛けている。弥彦の登山道整備に入っているところに高橋さんから電話が入った。そこで、唐松山を提案して本山行となった。

この日はどこも雨の予報であり、その中でも魚沼地方が午前中はまずまずであった。登山口に向かうまでは降ってなかったが、歩きだしから当たって来た。しかし、それほど風は無く、昼食時には上ってくれた。良くない中でも、いつか案内したいと思っていた山を歩くことが出来た。